

会 報

2017~2018 R I 第2720地区



人吉ロータリークラブ

The Hitoyoshi Rotary



通 算 2 9 5 2 回
2017年9月1日
第 8 回 例 会

ロータリー：変化をもたらす

2017-2018年度 R I 会長
イアン H.S. ライズリー

人吉市九日町30・清流山水花 あゆの里 ☎ 2171

例会場

事務局

清流山水花 あゆの里内 ☎ 6665 ☎ 6505



人吉ロータリークラブ
ホームページ



f フェイスブックページ

[E-mail]

hitoyoshi-rc@mocha.ocn.ne.jp

本日の進行

P 1	会長の時間
P 2	幹事報告、出席率報告、会務報告 結婚・誕生祝
P 3~4	宇土RC わくわく元気キャンプについて 米山学友会感謝in熊本 参加報告 人吉税務署長 卓話 「震災」その備えと税 ココ・R財・米山・人吉奨学寄付カード

点 鐘
歌 唱

井手富浩 会長
ソングリーダー 安達玄一 SAA委員

国 歌 「君が代」
四つのテスト唱和
R S 「我等の生業」

司会・進行 新掘純子 プログラム委員長

来訪者紹介 井手富浩 会長

人吉税務署
署 長 園田 孝幸 様
総務係長 肥後 貴久 様

国際ロータリー第2720地区
副研修リーダー 作守 順子 様
(宇土RC)

会長の時間

会長 井手富浩



皆様こんにちは、9月最初の例会です。また、本日1日は、防災の日、関東大震災記念日、大型の台風15号が近づいておりますが、二百十日と、近年、熊本、日本、世界中で、大きな自然災害に見舞われております。

北朝鮮のミサイルに備えるのは難儀ですが、災害に備えて、最低限の水や食料、燃料、電源の確保等は、必要となる昨今です。まだまだ

だ残暑が続きます、御自愛くださいませ。

さて、本日は、本年7月に着任されました、人吉税務署長の園田孝幸様に卓話を御願い致しております。昨年は山崎署長様に「相続税や贈与税の課税の基準となる、路線価等の財産評価」について、2年前は、指原署長様に「国税の納付管理・徴収事務」の経験談や、申告納税制度について、さらには、マイナンバー制度の御説明も頂き、自分の会社、自分自身にとりましても大事な貴重なお話をうかがうことができました。

本日の園田署長様にも、後程、延岡パスト会長より詳しく御紹介があると思いますが、人吉の御出身で、多分、会員の皆様にも同級生とか御縁のある方々が多くいらっしゃると思いますが、税制についての貴重なお話をうかがえるものと楽しみに致しております。

さて、本年度も3ヵ月目を迎え、今週、28日に青少年奉仕委員会、30日に会員増強委員会、職業奉仕委員会合同の家庭集会を開いて頂きましたが、青少年奉仕委員会では恒例の事業に加え、昨年度実施できませんでした「音楽を通じた“心の豊かさ”プロジェクト」に新しい企画を提案して頂き、大変期待を致しております。

また、本日御来訪頂いております、後程御説明頂きますが、宇土RC、作守順子 地区研修委員会副委員長が、計画されております、地区震災復興イベント(9/16~9/18)にも委員会を中心にクラブでサポートをさせて頂きたいと思っております。

会員増強委員会でも、当初計画の達成と、先月実施させていただきました、アンケート等の結果もふまえ、さらなる増強に努めていただきたいと思います。

職業奉仕委員会でも、当初計画に基づき、来年2月2日に職業奉仕月間卓話を、また地区セミナーへの積極的な参加を宜しく御願

致します。

また、本日例会の後、有馬ノミニーには、人吉RC戦略計画委員会を開催して頂きますが、本年度、永田ガバナーは、R I 戦略計画での3つの優先項目の内、「クラブサポートと強化」をあげておられ、「ロータリー戦略計画」でクラブ戦略計画委員会の設置と、3後の中期計画策定を求めています。

当クラブにおきましても二回の担当例会を開いて頂き、会員の皆様の、多くの意見を頂きながらとりまとめまして、次年度以降の人吉RCのデザインを「より良く変化」させていきたいと思ひます。宜しく御願ひ致します。

これで、会長の時間を終わります。ありがとうございました。

幹事報告



幹事 石蔵尚之

(理事会の承認事項)

- ・ 今月29日のガバナー公式訪問例会では懇親会も開催します。参加される会員には3,000円のご負担をお願いします。
- ・ 青井阿蘇神社の国宝指定10周年奉祝記念事業期成会より、当クラブ会長に理事就任の依頼がございましたので承諾することと致しました。

(連絡事項)

- ・ 9月のロータリーレートは1ドル109円です。
- ・ 2018～2019年度地区委員の推薦依頼が届きましたので後日、ご案内致します。
- ・ 2720地区より会員増強部門・新進気鋭会員セミナーのご案内が届きました。10月28日(土)12時半から16時半、熊本学園大学で開催されます。主に入会3年未満の会員が対象となっており、後日、出欠のご案内を申し上げます。
- ・ 地区ローターアクトの第33回年次大会、第1回会長幹事会のご案内が届きましたので永尾委員長にお渡しします。
- ・ 人吉医療センターより広報誌「翔」が届きました。→回覧
- ・ 公益社団法人くまもと被害者支援センター機関紙が届きました。→回覧
- ・ 例会変更のお知らせです。熊本西RCより9月19日、熊本北RCより9月21日、いずれも例会取り止めのお知らせが届きました。→掲示
- ・ 芦北RCより事務局のFAX番号変更のお知らせが届きました。→掲示
- ・ 人吉市国際交流協会より英語による観光案内人養成講座のご案内が届きました。→掲示

- ・ 明日2日は、大分にて管理運営・公共イメージ・会員増強の合同セミナーが開催されます。会長はじめ6名の登録となっております。
- ・ 阿蘇RC創立50周年の出欠の締め切りが過ぎておりますので、お早めのご返信を宜しく願ひいたします。

出席率報告

副委員長 高山征治

会 員 数	66名	本日の出席率	
出 席 免 除	4名	79.37%	
欠 席 者 数	13名	8 / 1 8 出席率	72.13%
出 席 者 数	49名	補 填 数	9名
免除会員出席者数	1名	修 正 出席率	86.89%

- *届け出欠席 大久保・岩下・青木・小林祐・中村・板崎
岩井・山田・内藤・村山・小林清・尾上・北
- *出席免除会員(b) 増田、愛甲(出席)、釜田、齊藤
- *メイクアップ
8/4 人吉RC戦略計画家庭集会；渡辺
8/10 人吉RAC例会；安達 8/26グリーン人吉；馬氷・宮崎・堤脩
8/28 青少年奉仕家庭集会；後藤・中村
8/30 会員増強、職業奉仕家庭集会；岩下・村山

会務報告

【ゴルフ愛好会】 運営委員長 塚本哲也

井手年度大人の修学旅行in宮崎のご案内

開催日 9/24(日)～25日(月)

場 所 24日 宮崎レイクサイドG C

25日 青島ゴルフ倶楽部

宿 泊 ホテルマリックス

多くの参加をお待ちしています！

【親睦委員会】

副委員長 塚本哲也

9月の結婚祝い

尾上 暢浩会員 10日

9月の誕生祝い

大久保勝人会員 7日

丸尾 孜 会員 9日

安達 玄一 会員 16日

井手 富浩 会員 24日

中川 貴夫 会員 29日

新堀 純子 会員 30日

加登住 亮 会員 30日



【キッチンカー管理運営委員会】



8月26日(土)、益城町小池島田仮設団地に炊き出しに行つて参りました。その後、青井神社のお手伝いで復興した島田地区八幡宮の遷座祭へもお伺し、振る舞いをして参りました。

今回は「吉組」さんも参加して頂き、総勢10名での炊き出しになりました。今月のキッチンカーは、第2日曜日に予定しております。お時間を空けて頂き、参加を宜しくお願い致します。

【来訪者】

熊本・大分地震支援プロジェクト

【わくわく元気キャンプ】ご協力のお願い

宇土RC 作守順子様

このプロジェクトは熊本・大分で構成される国際ロータリー第2720地区のプロジェクトで、宇土RC、人吉RC、多良木RC、第2720地区RAC、人吉RACの主催で開催いたします。昨年4月の熊本・大分地震で被災し、仮設住宅、みなし仮設住宅で生活している、小学校4、5、6年生、中学校1、2年生を対象に人吉市に対象の小中学生を連れて行き、大自然アクティビティ、ワークショップ、キャンプ、バーベキュー、農家民泊等、色々なことを体験してもらいます。災害を乗り越えこれからは強くたくましく生きて行く力と、回りには応援している大人が沢山いることを知ってもらい、これからの生活の励みになればと企画いたしました。連休のお忙し中を存じますが、是非人吉のの皆様のご協力をお願いいたします。

主催；宇土、人吉、多良木、人吉中央 RC
2720地区RAC
開催日時：平成29年9月16日～9月18日
開催場所：人吉市、あさぎり町
(ビハ公園キャンプ場)

- ・キャンプ概要、募集内容 スケジュール説明
- ・プロジェクトの進行状況について

【米山記念奨学委員会】 委員長 宮原和広

米山学友会感謝in熊本 参加報告



先週、8月26日(土)熊本ニュースカイホテルで2017年度、ロータリー米山記念奨学会が財団設立50周年記念を迎え、世界米山学友による「感謝in熊本」が開催されました。世界各国、日本各地からの米山学友・奨学生・ロー

タリアンと総勢約500名程の参加がありました。

当クラブより井手会長、石蔵幹事、伊久美ご夫妻、中川会員、そして私が参加致しました。奨学生の王さん達は会場で運営のお手伝いをしていました。世界米山学友とは簡単に説明しますと、米山奨学生のOBであり、母国に帰り活躍され、その国々で米山学友会を発足している組織であります。次は2年後にモンゴルで開催されます。



【プログラム委員会】

卓 話

「震災」その備えと税

人吉税務署長 園田孝幸様



このたび7月の定期異動で人吉税務署長として着任しました園田です。本日は人吉RCの例会にお招きいただきまして誠に有難うございます。また貴重なお時間をいただきお話をさせていただくこと大変感謝申し上げます。

げます。

先ほど「4つのテスト」が読み上げられましたが、さも私たち税務職員のことかと思われました。1番目の「真実かどうか」は、まさしく税務職員は、納税者の方が正しく申告・納税されているかを調べています。2番目の「みんなに公平か」は公平な税務行政、3番目の「好意と友情を深めるか」は信頼される親切丁寧な税務行政、最後の「みんなのためになるかどうか」は国民の皆さんのためになるため公務員は働くということです。この誓いのために呼ばれたかな(笑)と思いつつ、本日の卓話に入らせていただきます。

私は生まれも育ちも人吉であり、高校卒業後にこの職場に入りました。一時、人吉を離れていましたが、18年前に再度、住まいを人吉に構え、単身赴任と週末の人吉暮らしをしていました。この職場に入ってちょうど40年目に、まさか人吉に帰ってくるとは思っ

ておりませんでした。同郷者ということでこれまで以上に税務行政にご理解とご協力をいただければと存じます。

さて、本日の話は「震災その備えと税」という題目です。税金のお話をとも思いましたが本日（9月1日）は「防災の日」。熊本地震の際には熊本市東区、それも益城町のすぐ隣に住み、勤務しておりましたので、当時の体験談をお話しします。何かのご参考になれば幸いです。

「防災」という漢字は災いを防ぐとの意味ですが、間違っても災いを忘れる「忘災」であってはならないといひます。私たちは阪神、中越、東日本など平成に入ってからの大震災を見てきましたが、熊本は大丈夫と思っていました。油断は備えを忘れさせます。しかも4月14日の大きな揺れの後、それ以上の揺れがくると思ったのでしょうか。私はそう思いませんでした。人吉球磨にも断層があることを気づいたのも今回の地震後だったという方が多いのではないのでしょうか。

さて、私は高校卒業後にこの職場に入りました。まず税務大学校という研修施設で1年間学び、現場に配属されます。熊本国税局では熊本市東区の第二高校前にその研修施設があり、2年前、その研修所で勤務していました。その時、14日午後9時26分、16日午前1時25分の大きな揺れに遭遇したのです。14日は東区の住まいで風呂上りにバスタオルで体を拭いていた時でした。裸のまま呆然と、テレビや電子レンジが1メートル以上飛び、冷蔵庫が横滑りする様子を柱につかまって見ました。駐車場で余震におびえながら一夜を過ごし、職場へ行くと、4階建ての寮がV字型に大きく折れて半壊している姿にショックを受けました。また、約100キロの金庫が70センチほど横に滑り、書棚ロッカーは滅茶苦茶に倒れるなど悲惨な状況でした。当日は職員全員である程度片づけましたが、その日の夜、それが無駄になるとは誰も思いませんでした。

「また週明けに片づけようか」と言って夜遅くに帰宅。余震は覚悟していましたが、これが「前震」で次に「本震」があるとは思いませんでした。そもそも「前震」という言葉を知っている人は少なかったのではないのでしょうか。幸い私は本震時、食料調達のため人吉に帰っていました。人吉の揺れも大きかったですね。携帯電話の緊急地震速報の音が今でも耳に残っています。

翌週の月曜、4時間かかって戻った職場は3日前より悲惨な状況でした。半壊した寮は一層傾き、ロッカーや書棚などは前回にも増して倒

れていました。研修施設なので図書室もあります。そこに固定されていた鉄製の本棚は、どうすればこんなに曲がるのか、というほどグニャグニャに変形していました。本やテレビなどで紹介される地震の怖さを実感しました。

まず「身を守る」ことが重要です。震度7は想像を超えてありとあらゆる物が飛び、家が倒壊します。震度を体験することのできる装置をテレビで見かけますが、そこまでは・・・とっていました。しかし現実にはテレビの光景そのもの。幸い、倒れてくる物を「机」が防いでくれました。研修所内では倒れてきた物が全て、机によって支えられていました。机の下に身を隠せといわれることが理解できました。ただ、私はぼうぜんとするだけで、日頃からの訓練が大切だと痛感したところです。小さな揺れでも身を伏せる、身を隠すことを習慣づけておくこと。屋外に逃げるべきだという意見もありますが耐震・免震構造の建物でなら身を隠すことを優先すべきでしょう。もちろん、震度7では歩けないと思いますが。

研修所のテレビは倒れませんでした。ジェルのようなパッドが敷いてあったのです。同じく、先ほどの変形した書棚も倒れてはいませんでした。家具などを固定することも大切です。特に被害の大きかった熊本西税務署は勤務中であれば多くの死傷者が出て不思議ではなかったほどですが、ここでも机が倒れてくる物を支えていました。

私はその後、人吉の我が家の棚やタンスを突っ張り棒やL字のフックなどで固定し、テレビの下にはズレ防止のマットを敷きました。食器棚のガラスにはガラス飛散防止用のフィルムを張りました。倒れない、壊れない工夫も必要です。

救援物資については、災害後の2、3日は届きませんでした。研修施設は、数少ない国の施設における避難者の受け入れ場所となりました。ほかには熊本刑務所と熊本駅前の合同庁舎A棟が受け入れたと記憶しています。寮のほうは半壊状態で使用できませんでした。幸いにも無事だった教室に、約1カ月延べ2800名の被災者を受け入れました。私もこの間、平日は執務室に寝泊まりしました。

とにかく前震の翌日から熊本市内で物資が無くなりました。人吉からの物資輸送も考えましたが人吉でさえ食品、ペットボトルの水が品薄状態でした。避難所はどこも食料不足が続きました。幸い、研修所には水、缶詰、水で戻すご飯があり、それを提供しました。缶詰などの非常食は半壊の寮に保管してあ

り、倒壊の危険の中を決死の覚悟で往復しました。研修施設で井戸水を利用していただけもありました。飲み水だけでなく簡易トイレを使わなくて済んでよかったとの声を耳にしました。

復旧が遅れたのは都市ガスもそうです。温泉施設は2、3時間待ち。私は水風呂生活が2週間ほど続きました。人吉も水道の水が濁ったと思います。飲料水の確保が大きな課題でしょう。プロパンガスも家が使えないと意味がありません。カセットコンロは役立ちました。

3日目から好転し、飲み物、パン、果物などの食料が自衛隊などによって届けられ始めました。10日目ともなると余ってしまう状態に。私たちは救援物資には手を付けないようにしていましたが、2週間も過ぎると「余ると困るから」と何度か賞味期限切れ間近の菓子パンをいただきました。皆さんも家族、職場の皆さんが3日、持ちこたえる非常食を用意しておくことをお勧めします。そして何年かに1回、入れ替えの際に質素な食事をして自らを戒め、震災を思い起こすことも大切だと思います。

非常時に役立つものはこのほか、懐中電灯、情報収集のためのラジオ、連絡手段の携帯電話です。震災直後は通じにくかったのですがメールやラインは意外に早くつながりました。携帯電話やスマートフォンにはライトやラジオ機能が付いているものもありますので有効なツールとなります。難点は充電が必要なことで手動式の充電器や車から充電できる機器を用意しておいてください。その車は渋滞により移動が困難となりますが、雨風や夜露を防ぐ手段や電源として使うには便利。エコノミー症候群にならないため座席が平面になる車が便利だと感じました。

こうした体験を通じて最も心強かったのは家族、地域、職場の「絆」でした。一人よりも精神的に安心できます。皆が持ち寄れば数日間の食料も確保できます。私は単身者ばかりのアパートでしたので横のつながりは薄く、ほかの団地の方々が集まって話し、食べ物を分け合っている姿をみて、日頃からの人づきあいが大事だと痛感しました。

研修所でも避難者が自主的にボランティア活動を行いました。子どもからお年寄りまで自分ができることを。その中に、きちんとしたリーダーがおられたのは大きな成功でした。

まだお伝えしたいことはあるのですが、ここからは災害と税についてお話しします。

今年3月の熊本市内の所得税の確定申告は、大幅な増加件数となっています。要因の一つは、雑損控除という所得税の還付申告です。震



災に限らず火災や台風などの災害によって住宅や家事に損害を受けた時は、所得税の全部または一部を軽減することができます。また、災害時、被災しなかった人の還付申告もあります。その一つが、寄付金控除という制度です。国や地方公共団体、特定の公共法人（例えば日赤）などに寄付をされた場合は所得税及び復興所得税が還付される場合がありますし、住民税の控除も受けられる場合がありますという制度です。この寄付金控除には、いわゆるふるさと納税制度というものもありますが、これについてはまた別の機会でお話したいと思います。

なお、法人税についてもパンフレットに記載されているほか熊本地震に関しては、通常限度額計算が必要になる交通費や寄付金の計算が、寄付金の限度額計算の特例や、交際費に該当せず損金算入できる支出もありますので税理士さんや税務署にお尋ねください。

続いて、税務署からのお願い事を少し致します。人吉税務署は申告件数は増加している反面、この20年で職員数は3分の2となり行政コストの削減に努めています。ここ10年の取り組みである内部事務の電子化は今も大きな命題です。申告、申請の電子化、いわゆるe-Taxは順調に進んでいますが、あまり知られていないのが電子納税（ダイレクト納税など）です。これはe-Taxと同様、自宅や事務所いながら納税手続きが完了するシステムです。お金の持ち運びの危険性や時間的ロスが省けますのでぜひご利用していただきますようお願いいたします。

最後に今年で阪神大震災から22年。当時生まれた子どもたちは立派な社会人として活躍されています。東北の地震からは6年。その時に生まれた赤ちゃんは小学生になりました。爪痕は残りますが、月日の流れとともに、あの悲惨な状況を忘れてしまいがちです。そんな中、思いもよらない熊本地震が襲ってきました。繰り返しますが、防災という言葉は「災いを防ぐ」と同時に「災いを忘れない」こと。災害はつらい記憶ですが、つらいことを拡大させないためにも災害への対策の必要性を思い出すことが重要ではないでしょうか。本日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。

【寄付カード】 ニコニコ箱委員会 丸尾 孜
(ニコニコ箱委員会)

- ・宇土RC 作守順子様 本日はおじゃま致します。過分なるご紹介を受け恐縮しております。2月3月と熊本地震支援プロジェクトで人吉旅行を計画した際には、つばめタクシー様、本田節様に大変お世話になりありがとうございました。参加されたご家族から大変感謝の意を受けました。本日も引き続き熊本地震支援プロジェクトのご協力をお願いにありました。宜しくお願い致します。
- ・延岡会員 人吉税務署 園田署長、肥後係長、宇土RC作守様、本日はようこそ。園田署長、税以外の話、とても為になりました。ありがとうございました。
- ・葉山会員 園田税務署長、卓話ありがとうございました。白髪の署長ですが同級生です。お世話になりました。2720地区のヒロイン作守様、ようこそおいで頂きました。後程打合せ宜しくお願いします。
- ・渡辺会員 人吉税務署長、卓話ありがとうございました。作守さんようこそ！輝く瞳全国大会の司会よろしくお祈いします。
- ・石蔵会員 人吉税務署より園田署長、肥後係長のご来訪ありがとうございました。卓話もためになるお話をありがとうございました。また、地区より作守様にご来訪いただきました。心より歓迎申し上げます。
- ・井手会長 人吉税務署 園田署長様、肥後総務係長様、ご来訪、卓話ありがとうございます。作守地区研修副委員長、ご来訪ありがとうございます。
- ・伊久美会員 園田人吉税務署長様、作守地区研修副委員長様、ご来訪ありがとうございます。
- ・丸尾会員 誕生祝ありがとうございました。
- ・新堀会員 とうとうキリの良い年代に突入です。本日はありがとうございました。

〈人吉RC奨学基金委員会〉

- ・中川会員 園田税務署長、ようこそおいでくださいました。卓話ありがとうございます。作守地区副研修リーダーようこそ人吉へ!!いつもお世話になっています。
- ・延岡会員 ニコニコカードと同文
- ・葉山会員 ニコニコカードと同文

点 鐘 井手富浩 会長

R 情報委員会便り ～ミニR情報～

日本ロータリーの先駆者

福島 喜三次 (ふくしま きさじ)

1881(明14)～1946(昭21)

日本人第1号のロータリアン。

そしてロータリークラブを米山梅吉に紹介し、彼と共に日本にロータリークラブを創設した人。佐賀県有田出身。



日本のロータリーの創始者

米山 梅吉 (よねやま うめきち)

1868(明元年)～1946(昭21)

1868年 大和国高取藩の和田氏の3男として生れ、父の死後、母の故郷静岡県長泉(現米山梅吉記念館の所在地)に、中学まで過ごす。1883年上京。1887年米山家に養子として入籍。同年渡米し学問を修め、1895年帰国、三井銀行に入行。1918年再渡米中に福島喜三次の紹介で、ロータリークラブと出会いました。1920年10月、東京ロータリークラブを創立し、初代会長に就任。幹事は福島喜三次。



芝 染太郎 (しばそめたろう)

1870(明3)～1949(昭24)

日本ロータリー史上最悪の受難期とされる1938～40(昭和13～15)年代に、日本のロータリークラブの「専任幹事」を務めた人。愛媛県の吉田出身で、東京RC会員。「英語の達人」であり、昭和初期には『Japan Times』の社長でもありました。1939年6月には、全権を委任され、一人アメリカのクリーブランド国際大会に出席。得意の英語を駆使して、日本ロータリーの生き残りを賭け「日満ロータリー連合会」を誕生させたことで、知られます。



手島 知健 (てしま ともたけ)

1885(明18)～1968(昭43)

1952～54年度RI理事(日本人で3人目)。東京RC会員。1949年、東京RCが戦後国際ロータリーに復帰したときの、1949～51年度第60区(当時は日本全土で1地区を形成)のガバナー。あふれる国際性と洗練された物腰をもつ彼は、戦後、日本ロータリーが再出発したときの、大きなけん引役となりました。かつて、RIの日本語翻訳決定権は彼に委譲されており、「四つのテスト(The Four-Way Test)」の翻訳をとりまとめ、定訳をつけたことでも知られています。

